

## 評価結果表（保育所版）

### I 福祉サービスの基本方針と組織

#### I-1 理念・基本方針

I-1-(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。

1	I-1-(1)-①	評価
理念、基本方針が明文化され周知が図られている。		b
評価コメント	職員には年度初めに理念等を周知しているが、近年は勉強会が実施できていない。保護者への説明も口頭が多く文書化が課題。今後は説明資料を見直し必要事項を文書化して共有し、職員向け勉強会も定期化して理解度を確認できる体制が求められる。	

#### I-2 経営状況の把握

I-2-(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。

2	I-2-(1)-①	評価
事業経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。		b
評価コメント	えびの市の福祉計画の動向や内容は把握しているが、十分な分析には至っていない。今後は法人理事会での協議内容や系列園からの情報を活用し、園の経営環境を的確に把握できる体制づくりが望まれる。	

3	I-2-(1)-②	評価
経営課題を明確にし、具体的な取り組みを進めている。		b
評価コメント	経営課題として財政面に課題があるとのこと。税理士との月次報告で状況を把握し職員に説明している。経費削減として光熱費や教材費などの改善を促している。今後はさらに児童数の推移や予算状況も共有し、職員が経営状態を把握し対応できる体制づくりを進めるとのこと。	

#### I-3 事業計画の策定

I-3-(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。

4	I-3-(1)-①	評価
中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。		c
評価コメント	少子化による入園数の減少で園としての中・長期計画の策定ができない。今後は法人の事業計画をもとに園の特色や学童事業の状況も踏まえ、保育以外の幅広い視野で計画していくことが期待される。	

5	I-3-(1)-②	評価
中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。		c
評価コメント	中・長期計画が策定できない中、単年度の計画も見通しが持てないとのこと。今後は単年度の取組をもとに中・長期計画への展開を検討し、園の特色や学童事業の状況も踏まえて計画づくりにつなげていくことが期待される。	

I-3-(2) 事業計画が適切に策定されている。

6	I-3-(2)-①	評価
事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。		b
評価コメント	事業計画は年間行事や役割分担など職員の意見を取り入れて作成し、職員会議で周知している。今後は計画の策定から評価まで園としての組織的な仕組みを整え、継続的に運用できる体制づくりが望まれる。	

7	I-3-(2)-②	評価
事業計画は、保護者等に周知され、理解を促している。		b
評価コメント	事業計画は入園のしおりに記載し、3月の説明会で新年度の変更点を丁寧に説明している。保護者アンケートでも説明を受けたとの回答が多い。今後は内容の理解度に不安がある点を把握し、確認方法を検討することが望まれる。	

#### I-4 福祉サービスの質の向上への組織的・計画的な取組

I-4-(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。

8	I-4-(1)-①	評価
保育の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。		b
評価コメント	年2回、法人の自己評価の仕組みで全職員が評価を行い集計しているが、分析には至らず、評価基準も個人判断に委ねられているため園としての評価につながっていない。今後は評価基準と分析方法をわかりやすくし、基準に基づく個人評価から園全体の評価へつなげる仕組みづくりが望まれる。	

9	I-4-(1)-②	評価
評価結果にもとづき保育所として取組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。		b
評価コメント	自己評価が個人レベルに留まり園全体の評価につながらず、課題の抽出も不十分である。運営部会での協議内容は共有されているが、職員参画のもと園としての改善計画へつなげる仕組みを整えることが求められる。	

## II 組織の運営管理

### II-1 管理者の責任とリーダーシップ

II-1-(1) 管理者の責任が明確にされている。

10	II-1-(1)-①	評価
施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。		b
評価コメント	園長の役割は組織図や園だよりで示し、有事の対応や不在時の委任も明確にしている。一方で責任の明文化や認定こども園に関する最新情報の把握が不十分であるため、施設長としての役割と責任を整理し明確化する取組が求められる。	

11	Ⅱ-1-(1)-②	評価
遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。		b
評価コメント	法令遵守は行政通知や労務情報で確認し、マニュアルの整備やプライバシー保護規程の作成、人権・虐待防止の勉強会などに取り組んでいる。一方で経営者として学びが必要との認識があり、更なる取組につなげることが期待される。	

Ⅱ-1-(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。

12	Ⅱ-1-(2)-①	評価
保育の質の向上に意欲をもちその取組に指導力を発揮している。		a
評価コメント	保育の質向上に向け、研修機会の提供や5分野の部会活動、クラス会議を通じて職員の主体的な取組を促している。今後は園長がさらに指導力を発揮し、組織として自己評価と改善に取り組む体制づくりを進めることが期待される。	

13	Ⅱ-1-(2)-②	評価
経営の改善や業務の実効性を高める取組に指導力を発揮している。		b
評価コメント	財務の改善への取組に加え、労務もDXの推進が行われている。園長が運営部会で業務の実効性を積極的に検証している。今後は経営の先を見通せる運営体制を築くことが課題として挙げられ、その実現が期待される。	

Ⅱ-2 福祉人材の確保・育成

Ⅱ-2-(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。

14	Ⅱ-2-(1)-①	評価
必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。		b
評価コメント	園の規模縮小で新規の採用はないが、平均勤続年数は伸長している。一方で人材が固定化する中、キャリアパスに留まらず見直しを進め、期待する職員像を踏まえた効果的な人材育成と確保の取組が求められる。	

15	Ⅱ-2-(1)-②	評価
総合的な人事管理が行われている。		b
評価コメント	人事基準は明確だが、専門性や成果への意識や評価の妥当性には課題がある。処遇改善は勤続とキャリアパス達成が基準となっている。今後は職員の意向も踏まえ、将来を見通せる総合的な人事管理の仕組みづくりが求められる。	

Ⅱ-2-(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。

16	Ⅱ-2-(2)-①	評価
職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。		a
評価コメント	園長は年度末面談で職員の意向を把握し、就業状況も定期的に確認して個別に対応している。その結果、職員の満足度は概ね高い。特別な福利厚生はないが、配置の工夫や負担軽減に注力しており、定着につながっている。	

II-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。

17	II-2-(3)-①	評価
職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。		b
評価コメント	年度末面談で担任のみ翌年の目標を口頭で確認しているが、全職員の目標設定や進捗管理は十分でない。今後は目標管理の仕組みを整え、計画的に運用できる体制づくりが課題であり、その実現が期待される。	

18	II-2-(3)-②	評価
職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。		a
評価コメント	キャリアパスでは園外研修の機会を確保し、処遇改善に沿った計画的な受講を進めている。園内研修も専門部会の研究内容をもとに実施し、保育の質向上につなげている。	

19	II-2-(3)-③	評価
職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。		a
評価コメント	言葉の学習や音楽リズム、運動遊びなど特色ある保育の外部研修を計画的に受講できるよう配慮し、報告をもとに勉強会を開いて技術の平準化を図っている。今後は特色のある保育以外の自己研鑽の機会も提供し、成長を支える取組が期待される。	

II-2-(4) 実習生等の福祉サービスに関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。

20	II-2-(4)-①	評価
実習生等の保育に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。		b
評価コメント	実習生受入れではマニュアルで基本姿勢を明示し、事前面接で要望を把握して計画を立てている。実習中は担当教員と状況を共有し指導に活かしている。今後は実習指導者の研修機会を設け、より質の高い実習体制づくりが期待される。	

II-3 運営の透明性の確保

II-3-(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。

21	II-3-(1)-①	評価
運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。		b
評価コメント	WAMで事業内容や決算を公開し、ここdeサーチでも園の内容等を説明しているが、ホームページにリンクがなく改善が必要である。苦情・相談の公表状況も利用者に十分伝わっておらず、今後は丁寧に説明することが求められる。	

22	II-3-(1)-②	評価
公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。		b
評価コメント	会計事務所の定期的な指導を受け、事務の適正性を確認し見直しをしている。また行政の指導監査を受ける中で、指摘があれば改善につなげており、透明性も確保しながら適切な運営体制の維持に努めている。	

## II-4 地域との交流、地域貢献

II-4-(1) 地域との関係が適切に確保されている。

23	II-4-(1)-①	評価
子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。		b
評価コメント	夏祭りや水害訓練、河川敷公園の活用など地域活動に参加し、掲示板や便りで保護者へ周知している。学童や高齢者施設との交流も行っている。今後は子ども・保護者のニーズに応じ、地域資源をより活用できる取組が期待される。	

24	II-4-(1)-②	評価
ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。		b
評価コメント	ボランティア受入れはマニュアルを整備し、中高生の職場体験では事前面談で方針や留意点を丁寧に伝えている。一方で登録制度や必要な研修の提供は行えておらず、今後は受入れ体制を充実する仕組みづくりが望まれる。	

II-4-(2) 関係機関との連携が確保されている。

25	II-4-(2)-①	評価
保育所として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。		b
評価コメント	要配慮児童には保健師や家庭相談員の巡回相談で情報共有し、療育専門家の助言を受け保育を行っている。虐待が疑われる場合は児童相談所などと連携しケア記録により内容を共有している。今後は地域の子育て支援機関をリスト化して提供することを期待したい。	

II-4-(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。

26	II-4-(3)-①	評価
地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている。		b
評価コメント	法人が隣接小学校で学童保育を運営し、卒園児や系列園児が高学年まで利用している。公立保育所の前身から民生委員とのつながりもあるが、具体的な把握には至っていない。今後は子育て支援機能を活かし、新たな地域ニーズの発掘を期待したい。	

27	II-4-(3)-②	評価
地域の福祉ニーズ等にもとづく公益的な事業・活動が行われている。		c
評価コメント	地域交流として祭り参加や移動図書館の受け入れはあるが、公益的な事業の把握には至っていない。今後は市民協働担当や民間事業連絡会など福祉以外の分野からも情報を収集し、視点を広げた取組の検討が望まれる。	

## III 適切な福祉サービスの実施

### III-1 利用者本位の福祉サービス

III-1-(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。

28	III-1-(1)-①	評価
子どもを尊重した保育について共通の理解をもつための取組を行っている。		b
評価コメント	基本方針で子どもを尊重する保育を掲げ、人権研修後には虐待防止や性差への先入観を持たない視点を学んでいる。遊びを通して共感や仲間意識を育む関わりも重視している。今後は理念に基づく規程整備や人権チェックリストの活用など、職員全体で再確認できる仕組みづくりが求められる。	

29	Ⅲ-1-(1)-②	評価
子どものプライバシー保護に配慮した保育が行われている。		b
評価コメント	着替え時は仕切りの設置など工夫しプライバシーに配慮している。プライベートゾーンを伝え自分の体を大切にする意識を育てている。保護者アンケートでも個性を尊重することの評価が高い。まだ改善の余地があるとのこと。その取組が待たれる。	

Ⅲ-1-(2) 福祉サービスの提供に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。

30	Ⅲ-1-(2)-①	評価
利用希望者に対して保育所選択に必要な情報を積極的に提供している。		b
評価コメント	入園希望者には「入園のしおり」で理念や特色、生活の流れを図表入りで丁寧に説明している。一方で、個別の知りたい点には十分に答えられていない場合もあるとのこと。今後は個々の要望に応じ、具体的な情報提供ができる工夫が期待される。	

31	Ⅲ-1-(2)-②	評価
保育の開始・変更にあたり保護者等にわかりやすく説明している。		b
評価コメント	入園時はしおりや重要事項説明書で丁寧に説明し、同意書を取得している。変更時も都度対応しているが、特に配慮が必要な家庭への説明や運用が十分でないとの認識がある。今後はその充実に向けた取組が待たれる。	

32	Ⅲ-1-(2)-③	評価
保育所等の変更にあたり保育の継続性に配慮した対応を行っている。		b
評価コメント	施設変更時には求めに応じ情報提供を行い、就学先の小学校とも交流は続いているが、卒園後の相談窓口は設けていない。今後は在園時と同様に相談できる仕組みを整え、学校や行政機関と協働できる体制づくりが期待される。	

Ⅲ-1-(3) 利用者満足の上昇に努めている。

33	Ⅲ-1-(3)-①	評価
利用者満足の上昇を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。		b
評価コメント	日々の保育ではPDCAを通して心情や意欲を丁寧に観察している。行事アンケートは次の活動に活かされ保護者の満足度も高い。一方で利用のしやすさに関する課題も出ており、年1回の面談に加え、定期的な調査で把握し検討することが望まれる。	

Ⅲ-1-(4) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。

34	Ⅲ-1-(4)-①	評価
苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。		b
評価コメント	苦情解決の仕組みは第三者委員の設置を含め整備され、説明会で周知し園内にも掲示している。受付内容はシステムで記録し職員と共有している。今後は環境づくりや手続きの認知度、公表方針の理解度を把握するためのアンケートなど、仕組みの浸透に向けた取組が望まれる。	

35	Ⅲ-1-(4)-②	評価
苦情解決の仕組みは園内の目につきやすい場所に掲示し保護者が相談や意見を述べやすい環境を整備している。		b
評価コメント	感染症発生時はメールや掲示で迅速に周知し、保健だよりで家庭と連携して予防を促している。衛生・安全部会や乳児専門部会で対応を検討し適切に運用している。今後はマニュアルの見直しや勉強会など対応力向上への取組が期待される。	

36	Ⅲ-1-(4)-③	評価
保護者からの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。		b
評価コメント	苦情・意見は管理システムで記録し共有している。対応策は検討し保護者へ回答している。一方、プライバシー保護の観点から公表を控えているためアンケートでは公表が十分でない結果が見られた。今後は公表方針をどう説明するか検討する必要がある。	

### Ⅲ-1-(5) 安心・安全な福祉サービスの提供のための組織的な取組が行われている。

37	Ⅲ-1-(5)-①	評価
安心・安全な福祉サービスの提供を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。		b
評価コメント	事故対応マニュアルを整備し行動している。衛生・安全部会で環境整備を進め、ヒヤリハットを収集してマップ化し職員・保護者と共有をはかり、月1回の安全点検も実施している。ケガは協議し管理システムで共有しており、今後は安全研修の充実による向上が期待される。	

38	Ⅲ-1-(5)-②	評価
感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。		b
評価コメント	感染症発生時はメールや掲示で迅速に周知し、保健だよりで保護者に予防を促している。衛生・安全部会や乳児専門部会で検討し適切に対応している。今後はマニュアルの見直しや勉強会の開催など、さらなる対応力向上への取組が期待される。	

39	Ⅲ-1-(5)-③	評価
災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。		b
評価コメント	災害や不審者侵入を想定した避難訓練計画を立て、毎月実施して意識啓発を行い、保護者とも引き渡し訓練で備えている。専門部会ではチェックシートを用いて対策を検討し、災害発生から通常開園までのBCPも整備。備蓄管理や小学校との連携により、洪水・降灰など非常時にも対応できる体制を整えている。	

## Ⅲ-2 福祉サービスの質の確保

### Ⅲ-2-(1) 提供する福祉サービスの標準的な実施方法が確立している。

40	Ⅲ-2-(1)-①	評価
保育について標準的な実施方法が文書化され保育が提供されている。		b
評価コメント	保育ではリズム・運動遊びなど特色ある手法を導入し、マニュアルや指導書に基づき全職員が研修を受け専門性を確保している。年齢発達や子どもの姿を踏まえた標準的な実践も行い、権利擁護に配慮した関わりを重視。豊かな環境を生かした取組は保護者アンケートでも高く評価されている。	

41	Ⅲ-2-(1)-②	評価
標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。		b
評価コメント	特色ある取組以外の活動の標準的な実施方法は年度末の指導計画見直しで翌年度に反映している。しかし検証や見直しの仕組みは個々の保育者に任せ園としては定められていない。今後は職員や保護者の意見を踏まえ、定期的に見直す仕組みづくりが望まれる。	

Ⅲ-2-(2) 適切なアセスメントにより福祉サービス実施計画が策定されている。

42	Ⅲ-2-(2)-①	評価
アセスメントにもとづく指導計画を適切に作成している。		b
評価コメント	指導計画は全体的な計画から長・短期計画までシステムで管理し、個別計画も発達記録をもとに振り返り次期へつなげている。アセスメントが発達面に偏り家庭状況や生活リズムが十分反映されていない点が課題で、改善が望まれる。	

43	Ⅲ-2-(2)-②	評価
定期的に指導計画の評価・見直しを行っている。		b
評価コメント	長期・短期の指導計画は時期を定めて見直し、個別計画も年齢に応じて毎月または3か月ごとに評価し次につなげている。一方で、保護者の意見反映や同意取得の仕組みが不十分で、天候・感染症等による短期計画変更の手順も未整備であり、今後の改善が望まれる。	

Ⅲ-2-(3) 福祉サービス実施の記録が適切に行われている。

44	Ⅲ-2-(3)-①	評価
子どもに関する保育の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。		b
評価コメント	子どもの記録は保育に必要なほぼすべての項目が管理システムで記録されている。必要時はミーティングで共有し記録へ反映する場合もある。一方で、内容や書き方が力量によりばらつきがある。標準化に向けた指導や工夫が求められる。	

45	Ⅲ-2-(3)-②	評価
子どもに関する記録の管理体制が確立している。		b
評価コメント	個人情報の管理は責任者の配置やアクセス制限、職員への周知により漏洩防止を徹底している。一方で、記録の保存年限や廃棄が規定通り行われているかの確認体制は十分でなく、今後は点検を行う仕組みづくりが望まれる。	

## A-1 保育内容

A-1-(1) 全体的な計画の作成

A①	A-1-(1)-①	評価
保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて全体的な計画を作成している。		b
評価コメント	新年度初めに全職員で理念や方針を共有し保育計画へ反映している。年間計画を3月末に作成し発達や個人差を踏まえて月・週・日へ具体化している。全体計画を刷新したため、職員の意見を取り入れつつ次年度へつなげていく。	

A-1-(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開

<b>A②</b>	<b>A-1-(2)-①</b>	<b>評価</b>
生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。		<b>b</b>
評価コメント	各クラスに温湿度計を設置し記録しながら自然の風や衣服調節を基本にエアコンと換気を併用している。採光も活動に応じて調整し長時間過ごす子どもが心地よく過ごせる環境を工夫している。年齢差のある保育室では落ち着ける場の確保に配慮し、便器の高さや蛇口などの設備も衛生的で子どもが使いやすいものを整えている。	

<b>A③</b>	<b>A-1-(2)-②</b>	<b>評価</b>
一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。		<b>a</b>
評価コメント	乳児は個々の発達と欲求を丁寧に受け止め、1歳児は気持ちを汲み取る保育を心がけている。子どもの表現方法に合わせて対応し絵カードも活用している。対話の時間を確保しつつ、言葉遣いの見直しにも取り組んでいる。	

<b>A④</b>	<b>A-1-(2)-③</b>	<b>評価</b>
子どもが基本的な生活習慣を身につけることのできる環境の整備、援助を行っている。		<b>a</b>
評価コメント	声掛けに加えイラストなど視覚的支援を用い、こどもが理解しやすく生活リズムに合わせた環境を整えている。発達に応じて援助し自主性を尊重しながら関わることで子どもが自信をもって行動できるよう支援している。	

<b>A⑤</b>	<b>A-1-(2)-④</b>	<b>評価</b>
子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。		<b>b</b>
評価コメント	月齢差の大きい乳児に合わせて安全に遊べる環境を整え友だちとの関わりや自然体験を大切にしている。集団遊びや戸外活動を通して社会的ルールを学べるよう援助もしている。主体性を尊重しているが表現活動の環境や時間が十分でない点が課題として挙げられ見直しに向けた今後の取組が待たれる。	

<b>A⑥</b>	<b>A-1-(2)-⑤</b>	<b>評価</b>
乳児保育（0歳児）において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。		<b>a</b>
評価コメント	0歳児の欲求や気持ちを丁寧に受け止め応答的な関わりで信頼関係と情緒の安定を育てている。発達記録を確認しながら月齢に合った遊びを提供し保育者同士で連携して安心できる環境を整えている。連絡帳や口頭で家庭と密に情報共有し、個々に合った生活ができるよう支えている。	

<b>A⑦</b>	<b>A-1-(2)-⑥</b>	<b>評価</b>
3歳未満児（1・2歳児）の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。		<b>b</b>
評価コメント	1歳児は自我の芽生えを大切に安心して気持ちを表せるよう応答的に関わっている。2歳児は見立て遊びやごっこ遊びを楽しめる環境を整え喜怒哀楽を十分に表現できるよう支援している。トラブル時は気持ちを受け止め、言葉で伝えられるよう援助し、生活面でも自立を促している。	

A⑧	A-1-(2)-⑦	評価
3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。		a
評価コメント	3歳児は生活習慣を身につけながら友達と関わる楽しさを感じ気持ちを言葉で伝えられるよう支援している。4歳児は集団での活動を通して思いやりや協力する力を育み5歳児は目標に向かって工夫・協力し達成感を味わえるよう環境を整えている。また就学に向けて学校と連携も図っている。	

A⑨	A-1-(2)-⑧	評価
障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。		a
評価コメント	スロープや多目的トイレを整備し、子どもの特性に応じた支援を専門機関と連携して行っている。専門家の定期訪問や保健師との情報共有を通して環境を改善し、保護者にも相談先を伝えている。個々に合った支援は行えているが、計画的に進めることが今後の課題でありその取組が待たれる。	

A⑩	A-1-(2)-⑨	評価
それぞれの子どもの在園時間を考慮した環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。		a
評価コメント	子どもが無理なく過ごせるようにしたいことを受け止めながら保育をしている。朝夕の引継ぎで家庭と連携し、夕方はこどもの様子を把握しゆったり過ごせる環境を整えている。延長保育では寂しさに寄り添い、絵本や遊びで安心して過ごせるよう支援している。	

A⑪	A-1-(2)-⑩	評価
小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。		a
評価コメント	小学校とは児童の交流や要録の送付を通して連携し、日常的な関わりから就学への見通しをもてるよう配慮している。学校と隣接する環境を活かし学童との交流も行いながら入学後の生活に慣れていける機会を用意している。	

#### A-1-(3) 健康管理

A⑫	A-1-(3)-①	評価
子どもの健康管理を適切に行っている。		b
評価コメント	登園時に家庭での様子や体調を保護者と共有し、視診・触診で状態を把握して保育につなげている。既往歴や予防接種の情報を記録し保育中の体調管理の参考にしている。体調に配慮が必要な場合は全職員で情報を共有し状態に気づける体制を整えている。	

A⑬	A-1-(3)-②	評価
健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。		b
評価コメント	健康診断・歯科健診前に保護者にアンケートで気になる点を出してもらい医師に伝えている。結果は速やかに書面での配布や口頭で保護者に伝えている。園生活で注意が必要な場合は情報を共有し保育に反映している。	

A⑭	A-1-(3)-③	評価
アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。		b
評価コメント	アレルギーガイドラインにもとづき生活管理指導表を提出してもらい、保護者と連携して共通理解のもとで除去食を提供している。職員全員が研修とOJTを通してアレルギー児の情報を共有して対応している。また他児にも説明し理解を促している。	

#### A-1-(4) 食事

A⑮	A-1-(4)-①	評価
食事を楽しむことができるよう工夫をしている。		a
評価コメント	調理ではだしの旨味を生かして減塩に努め、添加物の少ない食材を使用し、素材の味を味わえるように配慮している。そのうえで咀嚼や自分で食べる意欲を育てながら、必要に応じて手伝い心も満たす関わりを行う。野菜の栽培や調理体験を通して食への関心を深め、家庭的な雰囲気の中で楽しく食事できる環境を整えている。	

A⑯	A-1-(4)-②	評価
子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。		a
評価コメント	栄養士と調理員が昼食後におやつとして手作りのパンとヨーグルトを準備し提供している。4週サイクル献立で偏食も無理なく改善し、行事食でも工夫して提供している。野菜料理を多く提供しお代わりも自由に行っている。その結果残菜も少なくなっている。毎時喫食を観察できないため担任と園児の状況を共有し献立に役立てている。	

#### A-2 子育て支援

##### A-2-(1) 家庭との緊密な連携

A⑰	A-2-(1)-①	評価
子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。		a
評価コメント	連絡帳や口頭で日々の様子を共有し、園と家庭で一貫した関わりができるよう連携している。行事や園だよりを通して保育の意図を伝え、年1回の面談で子どもの成長を確認。必要に応じて追加の面談を行い、安心して園生活が送れるよう支援している。	

##### A-2-(2) 保護者等の支援

A⑱	A-2-(2)-①	評価
保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。		a
評価コメント	連絡帳や送迎の時また行事を通して保護者と信頼関係を築き相談しやすい体制を整えている。伝わりにくい内容は口頭で補い園での様子を丁寧に共有するようにしている。支援が必要な場合は園長・職員そして専門機関と連携して方針を話し合い、職員全体で共有して支援につなげている。また相談しやすいよう個室での面談体制も整えている。	

A⑱	A-2-(2)-②	評価
家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。		b
評価コメント	乳児はマッサージや着替えの際にこまめに確認し傷やあざがあれば園長へ報告している。必要に応じて関係機関と連携し職員間で情報共有している。また要保護児童には保健師や家庭相談員とも定期的に情報交換し、保護者の様子も見ながら声掛けや支援を行っている。	

### A-3 保育の質の向上

#### A-3-(1) 保育実践の振り返り（保育士等の自己評価）

A⑳	A-3-(1)-①	評価
保育士等が主体的に保育実践の振り返り（自己評価）を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。		b
評価コメント	日々の保育を振り返り、自身の強みや課題を見直しながら質の向上に努めている。毎月のクラス会議で運営や個別の課題を共有し改善点を出して保育に反映している。年2回の自己評価も行い自己理解や保育の見直しにつなげている。	